

## カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）

【2018年度以降入学生】

本学の教育理念、建学の精神、教育目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の実現を図るため、以下のとおり教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めます。

### －編成方法・教育内容－

1. 看護学を体系的に学ぶために、教育課程を「基礎」「実践」「発展」の3分野で編成します。
2. 基礎分野では、看護専門職者として人を支援する上で必要な、「生命を尊重できる豊かな人間性・倫理観」、「科学的思考と問題解決能力」、「グローバル思考」の基礎を身につける教養科目及び「看護の基本的知識」に関する科目を配置します。
3. 実践分野では、基礎分野での学びを基に、看護実践の場において、様々なライフサイクルにある人と家族に看護を提供するために必要な看護実践能力を身につける科目を配置します。  
看護実践は、ケアリングを基本概念とする理論である「ロイ適応看護モデル」を基盤とします。合わせて、それぞれのライフサイクルと健康の段階に適した理論を用い教育します。
4. 発展分野では、基礎分野・実践分野での学びを基に、保健・医療・福祉の質の向上を目指し、時代と地域のニーズに合わせて、看護専門職者が担うべき責務と役割を開拓できる素地を養います。  
また多様な価値をもつ人々を理解しようとするグローバルな視点を持ち、地域社会や国際社会に貢献できる能力を養う科目を配置します。
5. 各学年に建学の精神「カトリックの愛の精神」に関する科目を配置し、学修到達度に応じた建学の精神の考察ができる教育課程を編成します。
6. 更に学びを深めることを希望する学生には、保健師コース、国際看護コース、グローバルスタディーズコースを設定します。

### －教育方法と評価方法－

7. 大学における学修への円滑な移行を促すため初年次教育に関する科目を配置し、主体的学修への転換を図り、自ら探究する姿勢を育成します。
8. 建学の精神である「カトリックの愛の精神」に基づく基礎教育・看護知識と実践を融合した教育を行うことで、人々に関心を寄せるケアリングの実践者としての姿勢を育成します。
9. 各科目のシラバス（授業計画）に時間外学修の内容を明記し、十分な学修時間の確保を促します。
10. 各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバス（授業計画）に明記し、「知識・理解」、「思考・判断力」、「技能」、「関心・意欲・態度」など様々な視点から学修成果の評価を行います。

本学の教育理念、建学の精神、教育目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の実現を図るため、以下のとおり教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めます。

#### －編成方法・教育内容－

1. 看護学を体系的に学ぶために、教育課程を「基礎」「実践」「発展」の3分野で編成します。
2. 基礎分野では、看護専門職者として人を支援する上で必要な、「生命を尊重できる豊かな人間性・倫理観」、「科学的思考と問題解決能力」、「グローバル思考」の基礎を身につける教養科目及び「看護の基本的知識」に関する科目を配置します。
3. 実践分野では、基礎分野での学びを基に、看護実践の場において、様々なライフサイクルにある人と家族に看護を提供するために必要な看護実践能力を身につける科目を配置します。  
看護実践は、ケアリングを基本概念とする理論である「ロイ適応看護モデル」を基盤とします。合わせて、それぞれのライフサイクルと健康の段階に適した理論を用い教育します。
4. 発展分野では、基礎分野・実践分野での学びを基に、保健・医療・福祉の質の向上を目指し、時代と地域のニーズに合わせて、看護専門職者が担うべき責務と役割を開拓できる素地を養います。  
また多様な価値をもつ人々を理解しようとするグローバルな視点を持ち、地域社会や国際社会に貢献できる能力を養う科目を配置します。  
更に学びを深めることを希望する学生には、保健師コース、国際看護コースを設定します。
5. 各学年に建学の精神「カトリックの愛の精神」に関する科目を配置し、学修到達度に応じた建学の精神の考察ができる教育課程を編成します。

#### －教育方法と評価方法－

6. 大学における学修への円滑な移行を促すため初年次教育に関する科目を配置し、主体的学修への転換を図り、自ら探究する姿勢を育成します。
7. 建学の精神である「カトリックの愛の精神」に基づく基礎教育・看護知識と実践を融合した教育を行うことで、人々に関心を寄せるケアリングの実践者としての姿勢を育成します。
8. 各科目のシラバス（授業計画）に時間外学修の内容を明記し、十分な学修時間の確保を促します。
9. 各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバス（授業計画）に明記し、「知識・理解」、「思考・判断力」、「技能」、「関心・意欲・態度」など様々な視点から学修成果の評価を行います。

本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現するために、次のことを意図し、カリキュラムを編成する。

「カトリックの愛の精神」と「愛の精神から導かれた人間存在・人間の尊厳・生命を尊重する倫理」、「ケアリング」を基軸として、看護学の内容基盤となる「ロイ適応看護モデルの人間・環境・健康・適応・看護」および「研究」、「専門役割」、「国際貢献」をカリキュラム編成の主要概念とする。

人間形成と看護実践力の育成をめざして、人間の深い理解と自己の豊かな人間性および科学的思考を育てながら、探究的体験学習を通して、看護の概念を身につけることができるように、基礎・専門教育を体系的に統合して編成する。

- ①「基礎分野」では、カトリックの愛の精神に基づいた人間教育の他、科学的思考と問題解決能力の基礎を養うための科目を配置し、豊かな人間性と教養を養うことを主とする。
- ②「専門基礎分野」は健康・医療・福祉など看護を実践に展開するために必要な専門的基礎を教授する。  
「専門基礎分野」は「専門分野」と関連が深く、基礎分野との間をつないだり、支持したりする分野である。
- ③「専門分野」は、基礎・専門基礎分野で学んだことを看護教育に発展させ、専門的なケアリングの理論と実践を探究的体験学習を通して教授する分野である。

専門分野においては、看護の科学性が自然科学と社会科学、そして全人的人格としての人間を見る視点として、その2つを統合させた総合科学の側面もあって、「臨床看護系」「社会看護系」「共通・統合」により編成している。

③-1「臨床看護系」は、基盤臨床看護学、精神看護学、老年看護学、母子看護学で構成され、基礎看護学での学びを土台に、あらゆるライフサイクル・健康状態に対応した看護実践（応用力）を教授する。

基盤臨床看護学は、従来の「基礎看護学」と「成人看護学」を統合し、人間理解に基づく看護実践の知識・技術・態度の基礎を教授するとともに、臨床能力の基盤づくりや疾患理解の強化が図れるカリキュラムになっている。

精神看護学は、対人関係論、ケアリング、セルフケア論等を基礎として、精神に障害のある患者と家族を全人的に理解するとともに、社会復帰を視野に入れた看護を実践できるよう教授する。

老年看護学は、老年期の理解と、生活と健康、健康問題と保健・看護活動ができるよう教授する。

母子看護学は、母性看護学と小児看護学から構成され、母子関係と家族関係の中で対象を把握し、看護できるよう教授する。

③-2「社会看護系」は、地域看護学と国際看護学で構成し、基礎看護系・臨床看護系等での学びを土台に、あらゆるライフサイクル・健康状態に対応できる、地域社会における看護活動の実践を教授する。国際看護学は、本学の特色の一つであり、国際看護の視点から国際社会に貢献できる人材を輩出できるよう教授する。

③-3「共通・統合」は看護管理学、看護教育論、看護研究、看護安全管理論、リハビリテーション看護学、ターミナルケア論、ケアリングサイエンス、災害看護論、総合看護学実習を配置している。看護実践に必要な共通事項と本学の特色及び学習の総括科目を位置づけ、既学習の看護学及び他学問の知識を活用し、自己の看護の向上・将来の看護学の発展に資すことのできる基礎能力と応用能力を教授する。

なお、各学年における科目配置は次の表に示すとおりである。

各学年の学習進度に応じた、基礎・専門基礎・専門科目の配置割合により、体系的に学ぶよう編成し、また、

1年次の「カトリックの愛の精神Ⅰ」「キリスト教概論Ⅰ」から4年次の「ケアリングサイエンス」まで、本学の建学の精神・教育理念に関連が深い科目を各学年に配置することにより、学習到達度に応じた建学の精神・教育理念を考察できるカリキュラムを編成した。